

メルマガ 第 11 号 吉村順三記念ギャラリーからの お知らせです。

先週から 目白ギャラリーは 展示替え いたしました。

吉村順三記念ギャラリーは

★★☆ J YMG 小さな建築展 第 28 回 ☆★★

「国際文化会館住宅と同志社大学アーモスト館新館」展を

7 月 2 日（土）から 8 月 7 日（日）迄の

各土曜日・日曜日 午後 1 時～6 時まで 開催しております。

○国際文化会館住宅 1955 年

「これは住宅の原型である」と思った。食卓と台所の関係、台所とユーティリティとお手伝いさんの部屋の扱い方に、家族の生活と一体の暖かさを感じた。風通しの良さも格別。このプランの主旨は愛知芸大の職員住宅にもつながってゆく。プランをみていると生活がわかる。家族が見える。やはり住宅はすべての建築の基本である。国際文化会館の本館は前川・坂倉・吉村の共同設計だったが、住宅は吉村の担当であった。生活を形にする、美しい寸法で楽しい空間を作る、がここにある。

○同志社大学アーモスト館新館 1962 年

同志社大学構内に建ったアーモスト館は学生の研修室と、牧師さんの住宅が一つになっている。ここでも教育と生活の一体化が実現されている。アーモスト館についての吉村の言葉があるので、一部分を転載する。

「我々は京都の建物のもっている人間的な尺度や、デリケートな美しさを近代の建築の中に再生してゆかなければならないと思っています。人間的な暖かさや楽しさを忘れたコンクリートの建築はまだまだ研究されなければならない多くの課題をもっています。設計上の一番大切な問題点は、新館をどういう風に本館と調和させるかということでした。本館と統一ある雰囲気を作るには庭が重要な役割を果たすことになってきます。幸い古い寄宿舎の跡まで庭にすることが出来て、この庭の空間がアーモスト館の中芯となりました。」

（文責 奥村まこと）

○（毎土日）3 時ごろには、ブレイクタイム・トークをいたしております

ご参加お待ちしております。

吉村順三記念ギャラリー

担当： 平尾 寛 藤井 章

◆この展覧会について

→ <http://www.sepia.dti.ne.jp/jymg/>
